

2023/4/11 (火)

朝の礼拝

聖書 詩編23編1-3節 (旧約聖書854頁)

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

主はわたしを青草の原に休ませ

憩いの水のほとりに伴い

魂を生き返らせてくださる。

主は御名にふさわしく

わたしを正しい道に導かれる。

### お化け屋敷

私は東京で生まれ育ちましたが、大学から親元を離れ京都で長い学生生活を送りました。大学、神学校、大学院、そして在外研究、夏休みは（インターン）実習がありました。ある夏、奈良の教会で実習のため離れにひとり寝泊まりしていたことがありました。

奈良公園、興福寺の隣り（風致地区）お寺のような教会でした。離れは鬱蒼とした木々に囲まれた平屋でした。すべて畳部屋、裸電球が揺れ、襖には一面に墨で毛筆の字、寝床からおトイレまでは長い廊下、誰もいないはずの部屋、虫の声、ほぼお化け屋敷です。

ある朝、早起きし窓の外を眺めていました。その時に黙想したのが詩編23編でした。スマホもパソコンも、話相手もない。木漏れ日が差し込む、鳥の声だけが響く静寂の中、ひとりぼっちの自分、臆病な自分を認めました。でも同時に安心感にも包まれました。

家族から離れ、長い学生生活、下宿、寮生活、一人暮らし、いつも友人、先輩後輩、恩師がいました。でもひとりになれる場所、時間があつたのは幸いでした。とても寂しい時もありましたが、光に照らされ自分を見つめ、温かく包まれたのは心強い瞬間でした。

(いま聴いたみ言葉について、しばらく黙想しましょう)

わたしたちを守り導かれる主よ、英和女学院の新しい一年が始まりました。あなたは九十九匹の羊を野原に残してでも、見失った一匹の羊を探すと言われました。どうかわたしたちが心細く、不安、悩みの中にある時、あなたのみ光によって照らし、あなたと共に安らかに歩ませて下さい。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごせますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン